



## 日野川活性化協議会設置要綱

(目的)

### 第1条

日野川に広野ダムが建設後約50年を経過し、吉野瀬川ダムが現在建設中である中、河川護岸や河川公園の整備、河川敷に繁茂した樹木の伐採・除根等の治水対策を実施してきた。一方で日野川漁業協同組合による稚鮎放流が毎年実施されている中、近年、今庄地区で鮎が定着していないことが報告されている。

日野川流域の治水対策を維持しつつ河川環境を整備し、第2条の課題解決をもって日野川流域の活性化を図るため、「日野川活性化協議会」(以下「協議会」という。)を設置する。

(協議内容)

### 第2条

協議会では、日野川流域において実施した河川環境調査結果等を基に以下の事項について検討する。

- (1) 釣り客減少のための対策
- (2) 中間育成施設を中心とした組合事業の活性化
- (3) 組合事業活性化のための運営体制の強化

(組織)

### 第3条

協議会は別表に所属する者をもって構成し、必要に応じ専門家の意見を聞く。  
(別表⇒構成員名簿)

(協議会)

### 第4条

協議会は会長をおき、会長が会務を統括する。

- (1) 会長は協議会を招集し、開催する。
- (2) 会長は必要に応じ会員以外の関係者の出席を求めることが出来る。
- (3) 会員が当日に都合が悪い場合は、代理出席でも認めるものとする。  
但し、組合員を除く。

(事務局)

### 第5条

協議会の事務局は、日野川漁業協同組合が行うものとする。

(その他)

### 第6条

本要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し、必要な事項は協議会において定める。

附則

この規約は、令和4年8月18日から施行する。

## 最近の河床環境状況

- R4年8月、R5年6月、7月豪雨あり→大雨の頻度は増えている。  
特にR4年8月は大災害をもたらし、災害復旧工事はまだ続いている。  
河川災害復旧工事に引き続き農地の復旧が始まった。



護岸工事の状況

(仮締切において濁水発生抑制)



河川内沈砂地設置による濁水発生抑制



望まれる玉石巨石による河床再生

(分別、集積、適池への再配置)



農地の復旧（堆積土砂の搬出）

(濁水発生抑制対策が望まれる)

- しかし、山腹や溪流の復旧には手が届かず、未着手のままである。



溪流から崩壊流出した大量の土砂が農地を埋め尽くした。崩壊土砂末端部分は、雨水で洗い流された粘土・シルト成分が浮遊状態となっている。降雨の際にはこれが河川に流入し濁水となる。

■ 濁水発生の原因は以下のものが考えられる。

- ・ 河川災害復旧工事 河床掘削
- ・ 農地災害復旧工事 圃場の堆積土砂の撤去、不陸整正)
- ・ 山腹、溪流等の手つかずの災害
- ・ 復旧工事の残土の山積み



積み置きされた残土には表面に礫が見られるが、当初はほとんど見られなかったはずである。雨水により表面付近の粘土シルトが洗浄され、見られるようになった。洗浄された粘土・シルトは濁水の原因となっている。

■ 濁水は以下の3成分から構成される。

- ・ 粘土 (< 0.005mm :
- ・ シルト (0.005 - 0.075mm)
- ・ 砂 (0.075 - 2mm)

大雨が降ると増水し河川流水の流速が大きくなる。

流速が大きくなると 粘土 → シルト → 砂 の順に移動する。

流速が小さくなると 砂 → シルト → 粘土 の順に沈降する。

■ 流出土砂（シルト・粘土分）の移動、沈降、堆積

- ・ 浅瀬、水際・・・・・・・・・・泥が流されやすく溜まりやすい。（沈降、移動）
- ・ 淵（深い場所：水衝部）・・泥が溜まりやすく流されやすい。（沈降、移動）
- ・ トロ（河床勾配小さい：全体に深い）は
  - ・・泥が溜まりやすい。（移動・沈降・堆積）
- ・ みお筋（早瀬、平瀬）・・泥が溜まりにくい。（運搬・移動）



浅瀬・水際（沈降・移動）  
（日野川、孫谷川合流点）



トロ（沈降・移動・堆積）

■ トロにおける濁水の沈降（松ヶ鼻頭首工上流）



◀ 粘土・シルト分で埋まったトロ場

▼ 浮遊状態の粘土・シルト分



◀ 一定時間の中で沈降したシルト分



この地点は最大水深1～1.5mの広いトロ場であったが、現在は沈降し不安定な粘土・シルト分で埋め尽くされて干潟状態となっている。  
降雨増水の際は濁水となって下流へ流出する。

## ■ 河床環境改善の見通し

降雨増水の度に水位の上昇下降、流速の緩急が繰り返され、濁水成分は移動・運搬や沈降・堆積を繰り返しながら徐々に上流から下流へと押し流されていく。

R4豪雨後1年あまり経過しているが、未だ濁水発生の状況は変わらない。上流から流出した大量の土砂中に含まれる濁水成分の洗浄・沈降し安定するまでは更に年単位の時間が必要かもしれない。



▲ 日野大橋下流の河床状況（浮遊状態の粘土・シルト分で被覆されている。）  
（11月6日撮影）



▲ 鯖江市石田橋下流の河床状況（浮遊状態の粘土・シルト分で被覆されている。）  
（11月9日撮影）

※毎年この時期のこの地点はサケの遡上が確認されるが、  
昨年につき今年も確認されていない。

## ■ アユ漁への影響

アユの生息に濁水は適さない。放流地点の選定には濁水に対する配慮が必要である。

例えば、ト口場から一定の離れた地点のみお筋（早瀬、平瀬）を選別し放流を行い、他の地点へは放流しないことも検討する必要がある。



# 環境セミナー



日野川 最高!再考?さあ行こう♪

## 「日野川の未来像」～共生の川づくり・まちづくり～

新しい時代を迎えて、これからは「環境・防災・まちづくり（暮らしと仕事）が連携・共生する社会」の構築がますます重要視されています。

そこで本セミナーを下記のとおり開催し、地域の貴重な財産である日野川を、地域住民と連携しながらさらに活用し価値を高めるために「共生の川づくり・まちづくり」を推進していくことについて考えます。

### 記

1. 日時 令和5年12月15日(金) 午後6時30分～8時30分

2. 場所 武生商工会館 4Fパレットホール

3. 内容

1) 開会挨拶

2) 第1部

演題 当日発表

講師 水産庁増殖推進部 栽培養殖課

内水面漁業振興室長 生駒 潔 氏

第2部

演題 「共生の川づくり」の推進

講師 国土交通省 水管理・国土保全局

河川環境課 河川環境評価分析官 岩下 友也 氏

3) 閉会挨拶

4. 主催 日野川漁業協同組合

共催 日野川環境整備協議会・日野川活性化協議会

(一社) 丹南建設開発機構・越前市建設業会・南越前町建設業会

(一社) 越前市観光協会・(一社) 南越前町今庄観光協会

後援 福井県内水面漁業協同組合連合会

福井県・越前市・南越前町



## 事業活動紹介



総勢300人が参加  
福井県産ブランド鮎の放流会



流域住民と釣り場の  
草刈・清掃活動



日野川活性化協議会  
活動報告会



鮎がすめる砂礫河原



釣人も大喜びの納得の釣果



県内外から総勢60名が参加者し  
シニア鮎釣り大会を盛大に開催



河川内沈砂地設置  
濁水発生の抑制：  
環境にやさしい災害復旧工法



笑顔満開の食卓彩る  
日野川の恵み



県内初福井県産ブランド鮎を  
学校給食に提供



皆様から寄せられた釣果情報や河川情報などを随時更新しています。  
フォロー・いいね！よろしくお願い致します。



Instagram



@hinogawa2023